

森林鉄道から日本一のゆずロードへ ～ゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化～(高知県)



日本遺産



魚梁瀬森林鉄道「二股橋」。

銘木・魚梁瀬杉を運んだこの森林鉄道は日本初の森林鉄道遺構の重要文化財



ゆずの収穫体験も行われています



坂本龍馬の盟友・中岡慎太郎の生家(北川村)



高知の名物料理「皿鉢料理」にゆずは欠かせません

ゆず畑が広がる美しい里山の風景に変貌 食や癒しなど質の高いニューツーリズムめざす

高知県東部、魚梁瀬杉の産地として栄えた中芸地域。林業の衰退とともに、農業へと大きく舵を切り、今では日本一のゆずの産地へと変貌を遂げました。かつて材木を運んだ森林鉄道の遺構や里山の生活風景・文化を育んだ物語は、2017年に日本遺産に認定されました。

森林鉄道駆け巡る杉の地から ゆずの里へ

明治時代に敷設された魚梁瀬

森林鉄道は、銘木・魚梁瀬杉の運搬ばかりでなく人々の生活の足としても活躍し、里山の暮らしに欠かせないものでした。しかし1960年代の林業衰退とともに廃線となり、車道がつくられま

す。ゆずの栽培はかつての森林鉄道の軌道沿いで、林業に代わり始められました。
実は中芸のゆず栽培は江戸時代末期に明治維新で活躍した中岡慎太郎が奨励したものでした。林業の後を継ぐ産業として、人々はそのゆずに改めて注目し、山の斜面に段々畑をつくり休田にゆずを植えていきます。かつての軌道沿いには初夏になるとゆずの白い

花が、秋から冬は黄色い実がなる風景が生まれたのです。

受け入れ能力に応じた旅行を模索

日本遺産を構成する地域は奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村。観光面ではFITや小グループベースでの千本山ハイキングや鉄道遺構の鉄道体験乗車などがありますが、「5町村はいずれも山間の小村で、高知市からも車で1時間。温泉はあるが大規模グループ向けではない」と中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会。「この日本遺産の核は、鉄道遺構が象徴する、林業から農業へと変わった町村の歴史と素の風景。土地のキャパシティに応じた食や癒し、健康などをテーマとした質の高いニューツーリズムの可能性を探っていききたい」と話しています。



馬路村魚梁瀬丸山公園では森林鉄道の体験乗車も可能



魚梁瀬杉を育んだ千本山はハイキングで人気



森林鉄道遺構を巡るガイドツアーも実施されています